©早稲田予備校

早稲田大学 法学部 世界史 講評

出題形式 **試験時間** **特徴・その他**	マーク・記述併用 60分 大問５題でうち４題は記号選択式、１題は論述という形式は不変。また大問Ⅰ～Ⅳの小問数と選択肢の形式も昨年・一昨年と全く同じ。選択問題の数は34題で不変。と論述250～300字(2015年は200～250字、2016年以降は250～300字)１題で形式・分量ともほぼ同じである。論述は2011年「中国現代史」、2012年「近代の欧州の英・蘭関係」、2013年「19世紀末から国際連盟にいたる戦争回避の動き」、2014年「中国現代史」、2015年「「民族自決」の理念波及」」、2016年「ドイツ統一」、2017年「航海法」、2018年「露の南下政策と東アジア進出」、2019年「中世ドイツにおける教皇権と世俗権力」、2020年「19～20世紀の米・メキシコ関係」、2021年「1701～63年時代の英の対仏・墺関係」、2022年「６～10世紀末にかけての北アジアおよび中央アジアのトルコ系民族集団の興亡と移動」。近現代史中心であったが昨年は一転して６～10世紀の中央アジアと激変した。今年は南アフリカの人種差別という刺激的テーマであった。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
Ⅰ	10世紀以降の中国の対外政策と海洋	2022年「中国の多元性とその歴史的背景」、2021年「中国の歴史における宗教と思想」、2020年「中国王朝の陵墓」・2019年「故宮博物館」・2018年「中国史の各時代・各王朝の特徴」と一貫して中国史をテーマ。今年も継承された。設問１：正解は③。トウモロコシ・サツマイモは新大陸原産。大航海時代以降に旧大陸に伝わった。設問２：正解は②。元代の中国を訪れたのはイブン＝バットゥータ。設問３：正解は①。サンスクリット文学を生み出したのは北インドのアーリヤ系。サンスクリット文学の最盛期は北インドを中心とするグプタ朝(320頃～550頃)である。設問４：正解は②「オケオ」。設問５：正解は④。①は両税法、②は明初に施行された里甲制と一体。④-地丁銀制は康熙帝(位1661～1722)代に導入された税制。設問６：正解は③「キャフタ」。設問７：正解は①。「鎖国」という語は長崎オランダ商館付き医師ケンペルの『日本誌』を「鎖国論」と和訳(1801)したのに始まる。設問８：正解は①。A奴隷解放宣言(1863)→B大陸横断鉄道開通(1869)→C中国人移民禁止法(1882)の順。中国人移民禁止法がやや細かいが、大陸横断鉄道西側工事の労働者に多くの中国人が加わっていたことを想起すれば判断できる。設問９：正解は④。中ソ対立の最終的終結はゴルバチョフの中国訪問(1989年５月)。天安門事件(89年６月)の直前である。	標準
Ⅱ	ロシアの歴史とウクライナ	設問１：正解はウ。「西スラヴ人がギリシア正教の文化圏」の部分が誤り。同じスラヴ人でもポーランド人・チェック人・スロヴァキア人など西スラヴ系はローマ＝カトリックを受容した。設問２：正解はア。バトゥが建国したのはキプチャク＝ハン国。これは基本中の基本事項。設問３：正解はイ。ア-バルト海に進出を果たしたのはピョートル１世。ウ-エカチェリーナ２世の治下で農奴制は一層強化された。それに抗ったのがプガチョフの乱(1773～75)。エ-クリミア戦争でロシアの南下政策は頓挫している。設問４：正解はエ。ワルシャワ大公国(1807～15)はナポレオンが建てた国。設問６：正解はイ。アは「各民族に広範な自治」が誤り。ハンガリーの特権層を優遇した結果、チェコでは反発が強まった。	やや難

番号	出題内容	コメント	難易度
Ⅱ		ウ-「オーストリア内のドイツ人地域を係合」が誤り。エ-オーストリアが併合したのはボスニア・ヘルツェゴヴィナ。設問７：正解はア（ベラルーシ）。設問８：正解はウ（独ソ不可侵条約）。ガリツィア地方は３次にわたるポーランド分割の結果オーストリア、そしてオーストリア＝ハンガリーの版図に組込まれた。１次大戦後にポーランドが復活すると連合国が予定したポーランド東部国境（通称「カーゾン線」）を、ソヴィエト＝ポーランド戦争（1920～21）でポーランドが大幅に東へ移した。これに不満をもったスターリンはテヘラン会談でポーランド国境を西へ戻すことを主張し、合意を得た。カーゾン線は独ソ不可侵条約付帯の秘密条項であるポーランド分割の線とほぼ一致する。そのためウ「独ソ不可侵条約」も正解といえなくもない。設問9-正解はウ。ゴルバチョフ大統領に選出（1990年３月）→保守派クーデタ（1991年８月19日～21日）→ソ連共産党解体（1991年８月24日）→独立国家共同体成立（1991年12月）。保守派クーデタと共産党解体は数日の違いではあるが事態の流れで把握していれば前後は容易である。	
Ⅲ	イスラーム世界の成立と展開	設問１：正解は３。ユダヤ教徒・キリスト教徒は「啓典の民」として遇され、偶像崇拝の宗教とは区別された。モーセもイエスもムハンマドに先行する預言者であり、ムハンマドは最期の預言者と位置づけられた。設問２：正解は４。１-「セレウキア」は「クテシフォン」の誤り。２-エフタルを滅ぼしたのはホスロー１世。３-「サトラップ」はアケメネス朝の州知事。設問３：正解は２。１-クローヴィスの改宗（496）はフランク統一（481）に先行。３-カール戴冠の教皇はレオ３世。４-ヴェルダン条約ではフランク王国は三分され、そのうち中フランクとイタリアがロタールの支配地となった。設問４：正解は３-「肖像画や像」はモスクにはない。設問５：正解は４（ブワイフ朝）。設問６：正解は３。「シーア派の神学と法学を奨励」が誤り。設問７：正解は１（ニハーヴァンドの戦い（642））。設問８：正解は２（アブド＝アッラフマーン２世）。	標準
Ⅳ	新大陸の歴史	設問１：正解はハ。イ-バルトロメウ＝ディアスに命じたのはジョアン２世。ロ-カリカットから輸出されたのは綿布（キャラコ）。ニ-フィリピンを植民地としたのはスペイン。設問２：ティオティワカン文明（前1世紀～後6世紀）はスペイン人と無関係。設問３：正解はハ。イ-フランソワ１世はヴァロワ朝（1328～1498）の王。ロ-価格革命は封建領主の弱体化を促した。ニ-絶対王政の常備軍は私的傭兵。絶対王政の常備軍に大量の傭兵を供給したのはドイツとスイス。設問４：正解はニ。イ-ダホメ・ベニン両王国は奴隷貿易で繁栄した。ロ-北米の英植民地でタバコ＝プランテーションが始まったのはヴァージニア。また先住民は労働力とはみなされずただ排除の対象とされた。ハ-スペインはアフリカに奴隷供給源となる植民地を持っていなかった。設問５：正解はイ。ロ-ワシントンを総司令官に選出したのは第２回大陸会議。ハ-スペインはフランスとならんで独立派に加担した。米独立戦争はスペインにとっては連敗続きであった植民地戦争での失地挽回の機会でもあった。ニ-パリ条約（1783年９月）時点では合衆国は成立していない。合衆国の成立は合衆国憲法制定（1787）による。設問６：正解はイ。空欄Ｂのハイチとブラジルは論外なので易しい。	標準

番号	出題内容	コメント	難易度
Ⅳ		設問７：正解はロ（カニング）。ウィーン体制下のヨーロッパでラテンアメリカ諸国の独立を支援し英自由貿易体制に組み込むことに成功した。ギリシア独立を支援したことでも知られる。設問８：正解はエ。キューバ危機は1962年、米州機構（ＯＡＳ）の成立は1948年である。	
Ⅴ	南アフリカの近現代史とアパルトヘイト	問題文の要求に従って事実関係を忠実に記せばよい。始点は「17世紀半ば」のケープ植民地建設（1652）、終点は「1990年代初頭に南アフリカでは大きな社会変革」。この展開に指定語句をはめ込んでいく。事実関係の推移を記すなかで、どこまで「説明」らしい文章にするかが手腕の問われるところである。奴隷制≒人種差別≒隔離政策を世界情勢と移りゆく時代の中でどうとらえるかは意外に難しい。「ケープ植民地」建設（1652）→オランダ人（ブール人）入植と奴隷農園経営→ウィーン会議で英領（1814）→英で奴隷制度廃止（1833）→ブーア人、トランスヴァール共和国・オレンジ自由国建国→「南アフリカ戦争」（1899～1902）→南アフリカ連邦成立（1910）＝英はブーア人との融和のためアパルトヘイト（人種隔離政策）を容認→「アフリカ民族会議」（1923）＝１次大戦後の民族運動高揚→（1961（英連邦から離脱）～）「白人少数者」の特権維持に固執＝国際的孤立→アパルトヘイト法的撤廃（1991）の流れを追う。ただ字数の制約でこれを全て盛り込むのは不可能。大きな転機は３つ。１つ目は南アフリカ連邦の成立と英が自治の名のもとに隔離政策という事実上の奴隷制を容認したこと。隔離政策の原点は英植民地体制であったことは重要。２つ目はアフリカ民族会議の成立（1923）。これは１次大戦後に世界的規模で拡大した民族自決の潮流のうえにおきた。３つ目は第二次大戦後のアジア・アフリカ独立のうねり。そのなかで白人少数者の特権維持に固執した南アフリカは国際的孤立を深め、91年の隔離政策撤廃に至る。そのあとは問題で要求されていないが、隔離政策撤廃で黒人は自由と安定した生活を手に入れたのか？という視点も踏まえておきたい。肌の色でのあからさまな差別は表面上なくなったが、経済的格差は一向に改善される気配はない。人種差別は悪いが自由な個人の能力に起因する経済的格差はしかたがない、自己責任であるというネオリベラリズム（新自由主義）的理念によって格差は正当化されてしまっているのである。	やや難

〔総合コメント〕

マーク式の正誤判定・年代配列問題・空欄補充問題と250～300字論述という構成は定着。年によって正誤判定の難易度は微妙に変化するが今年はやや易化した。年代配列は昨年と同レベルでそれほど面倒なことはない。ただ年代配列問題で壁にぶつかったときの対処には慣れが必要なので早大他学部の過去問にも手を広げて問題数をこなしておきたい。地図問題は出題されなかったが、普墺戦争後の北ドイツ連邦成立やウクライナとガリツィアに関する出題は形をかえた地図問題といえる。普段から地図をこまめに参照しているかどうかで結果が大きくかわる。直接の地図問題の有無にかかわらず歴史地図は積極的に活用したい。マーク式の空欄補充問題は易しいものばかりなので取りこぼしは絶対に許されない。ロシアとウクライナ・ポーランドについての問題は、時事問題としてニュースに接していればかなり有利だったに違いない。受験勉強＝参考書・教科書・問題集といった閉鎖的空間にこもると対処は困難である。ニュースはテレビだと無駄な時間を費やしてしまうので、新聞や月刊誌がよい。現役生なら自校の図書室で時間をきめて目を通すのがよい。法学部定番の250～300字論述。近現代史を中心にどんな分野・テーマでもこなせるようにしておきたい。基本は事実関係に関する知識で、これが無ければどうにもならない。しかし、知識があってもうまくまとめられないという危険もある。失敗しないためには問題演習の数をこなすしかない。早大法の過去問に加え筑波の二次など傾向・字数の近いものを使うとよい。世界史担当の教師・講師に依頼して添削の指導を受けることができればなおよい。